

やませみ 通信

<http://www.okitsu-yamasemi.net/>



(やませみは興津川の清流のシンボルです)

人知れず流れ下る御前の滝で涼を求める



(H24.7 市民の森づくりにて)

N O. 35

平成 25 年 3 月

〈平成 24 年の活動〉

- 4月 市民の森づくり（植樹）
- 5月 総会
- 6月 螢鑑賞会
- 7月 FMラジオ「マリンパル」出演
市民の森づくり（下草）
川遊び・鮎釣りセミナー
- 8月 川のセミナー
- 9月 興津川クリーン作戦
- 11月 視察研修、全国育樹祭出席
森林探検隊（中止）
- 2月 市民の森づくり（中止）
静岡市生物多様性
シンポジウム参加

目 次

- 1 清流・興津川をもっと美しく 興津川クリーン作戦
- 2 「川の生き物と仲良くなろう！お昼は楽しく流しソーメン」第17回 川のセミナー
- 5 川遊び・鮎釣りセミナー
- 7 市民の森づくりを振り返って
- 9 山梨県北杜市・視察研修「森と水の視察研修に参加して」
- 10 清流に遊んで清流に学ぶ
- 11 平成 24 年度 静岡市興津川保全基金への寄附など

再生紙、及びベジタブルインクを使用しています。

「NPO 法人おきつ」 顧問 菅沼 隆

興津川の美化活動への取組

数年前には興津川の美化活動として、興津の自治会が川の巡回をしました。バーベキューや川へ泳ぎにきた人たちに、後の清掃を呼びかけました。きれいな川で、気持ちよく楽しく遊んでもらうためにも継続的な活動が大切です。毎年実施されている興津川クリーン作戦は年1回ですが、多くの人たちに参加して頂くことで、地球温暖化に対する、環境問題の理解を深める活動に繋がるものと確信します。

市民会議の会員として活動

私たち「NPO 法人おきつ」は本年より興津川保全市民会議の会員に加入しました。昨年までは、住民として自主的に清掃活動に参加していましたが、今年より会員の立場で多くの人たちに参加を呼びかけました。鮎釣りで有名な興津川は、私たちの誇りであり、宝です。そして、興津川の水は上水道として、多くの市民に利用されています。

河口付近の污水対策

私たちNPOの取り組んでいる活動の一端を報告します。平成19年頃の河口付近はヘドロ状態で、子どもたちが泳ぐことができない状態でした。原因究明のため、水質調査と污水の分析を行いました。その結果、工場からの污水流出と判明し、近辺の各工場に污水流出に対する理解と改善を呼びかけてきました。



興津川の河口にて



それぞれ真剣な取り組みをして頂き、今ではきれいな川に変わったと誰もが思うようになりました。水質調査は今でも続けていますが、新しい課題も出てきました。市の下水道工事が進められていますが、各家庭ではその活用があまりなく、一部では川への垂れ流しの状態がまだ続いています。

山・川・海を美しく

次に大腸菌の数値が多くなりつつあります。川の上流には猪だけではなく、ハクビシンやアライグマ、最近では鹿も出没すると聞きます。なぜこのような現象が生まれるのか、地球温暖化も大きな要因ですが、川が汚れると海も同じです。興津は港の建設が進められています。同時着工と同時竣工で興津川河口西側へ人工海浜（海水浴場）の工事も進められています。海もきれいにしなければなりません。自然な「山・川・海」を守る大切さを後世に伝えていきたいものです。



興津川の清掃ご苦労様でした

興津川保全市民会議事業委員 (公社) 静岡県建築士会 木村精治

8月25日(土)第17回川のセミナーを開催した。ほとんど天候に左右されない恵まれたセミナーだ。セミナーの内容いつものながらの3部構成だが、違うところは、事業委員の小川さんが急病で休んだこと。そこで、静岡大学の加藤麻美さんが助っ人に。大変助かりました。

「承元寺、黒川」での水生生物採取

第1部は定番となっている「承元寺、黒川」での水生生物採取。

水生生物の数量や種類の違いによる水質の良さや生物の特性を東海大学の永井先生、北野先生とゼミ学生の助けを借りながら、子どもたちに理解してもらう。

水辺の環境は感覚的には、「承元寺」は第15回で紹介したように洲が付き、流水路が狭く水量も少ない状況が当たり前ようになってきた。「黒川」は年々水量が少なくなっている。そろそろ、科学的に数値で表したほうがセミナーらしいかもしれない。と思いつつ、今年も感覚的な判断となった。唯一、水温は毎回測定し、水温は毎年ほとんど変わらない。



承元寺付近



黒川付近



黒川付近にて、北野先生から採れた生物の説明

いつもと少し違う「防犯」のセミナー

第2部はおいしい流しソーメン効果もきいてお昼の眠気のゴールデンタイム。今年は「安全」といっても川での安全ではない。「防犯」？夏休みの後半は、気持ちもダレ気味。川の周辺は犯罪者が喜びそうな場が多くある。安心して遊ぶためには、安全確保が基本。親や大人が絶えず見守ってくれるとは限らない。親がすぐ近くにいっても犯罪は起こる。子ども自身が「自分の身は自分で守る」ことを学ばなければいけない状況になっている。これは川遊びでも同じ。犯罪者は「帽子を目深にかぶり、マスク、黒メガネ」といった先入感が強いが、多くは「いたって普通」。だから、声をかけられても、疑いなく犯罪者についていってしまう。子どもたちに、犯罪者のイラストを見せ、数分後に特徴を聞いたが比較的よく見ていた。こうした観察力も必要。防犯の知識を科学的に学び、観察する力を養い、何度でも体験することが安全確保につながる。川の観察にも通ずるところがある。「防犯」といいたい分野と思われた、今回の川のセミナー第2部。内容は間接的ではあるが川との共通点がある。良く考えられていると密かに自分で納得。



和田島少年自然の家にて

興津川の魚は何を食べているのか？

水生生物と水質を科学の目で観察

第3部は再び、永井先生と北野先生の「セミナーのふりかえり」と「まとめ」。生物の数量比較や顕微鏡での観察など科学的な目で生物を見て、水質の良さを知る。今回のセミナーは、「科学の目」の重要性を学ぶとともに、「何か変だ。何かが違う」と感じる「感覚の目（観察の目）」の両方が大切だとあらためて感じた。

永井 彰先生のお話



〈川のセミナーのアシストとして参加〉

川のセミナーの感想

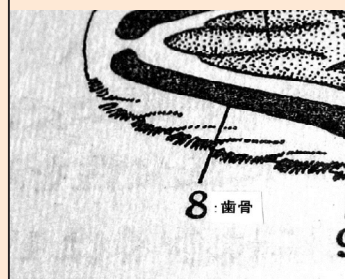
静岡大学3年 加藤麻実

歳を重ねるにつれ、だんだん山や川といった自然と疎遠になってきます。小さい頃は時間があれば近の川へ生き物を捕まえに出かけていましたが、今や川という言葉さえ私の頭から消えていました。そんな中の参加でしたので、川に入るのは何年ぶりでしょう。私の目に映ったのは、小さい頃によく見た生き物たちとそれを夢中になって探す子供たちの笑顔。こんなにも近くにこんなにもたくさんの生き物がいるんだなと驚いていると、もうすでにバケツの中はいっぱいでした。テレビゲームなどがどんどん普及する時代ですが、自然は私たちに思っていた以上のものを教えてくれます。遊びを通して学ぶ大切さを子供たちと自然が教えてくれました。

鮎の口を触ってみた感触は？

魚が何を食べているか？は「どんな口」をしているか？を調べることから始まります。興津川は鮎釣りで有名ですから、まず鮎の口から調べてみましょう。

いつも川のセミナーの時、釣り名人の望月事業委員長や池田委員にお願いして和田島少年自然の家で鮎を釣って頂き、この時は、口の下顎に触れて、どんな感じがするか確かめて頂いています。「ザラザラしている。でも尖った歯はないね」と言われる人が多いです。その通りで、魚類学の本の図を見ると、鮎の歯は櫛状歯（せつじょうし）と言い、小さな歯が並んだ櫛（くし）を重ねて、ヤスリのような形になっている。



鮎の下顎（下あご）を上から見たものだが、9番に櫛状歯と書いてあり、左右に11枚ほどの櫛状歯が重なるように並び、「ザラザラ」の原因になっている。

鮎の主食は川底の石に生えるケイソウ

これは何の役に立つのだろうか？鮎の主食は川底の石の表面に生えるケイソウなどの植物なので、鮎はこのヤスリのような歯で、削ぎ取って食べているのだ。食べた跡にすじ状のはみ跡が残る。釣りの名人は新しいはみ跡が多いところを探して釣りにかかるという。鮎の食べるケイソウなどは水のきれいな、日当たりのよい川底の石の表面に生えているが、顕微鏡で見ないと見えないほど小さいものが多い。これを「水垢（みずあか）」と言ったり「石のぬめり」と言う人もいる。

縄張りを持つ鮎の習性と友釣り

だから鮎は自分の餌を確保するため“縄張り”をつくり、おいしい水垢の生えている多くの石をわが物とし、他の鮎が縄張りに入ってくるのを嫌い、追い出しにかかる。この習性を利用した釣りが「鮎の友釣り」である。鮎にはミミズなどの餌を針につけても釣れないのは、好みが違うからで、縄張りを持つ習性を利用した「友釣り」は巧妙な技術と言うことができる。ここで、興津川が鮎釣りで有名になっている原因を考えてみよう。

川底に太陽の光が届くきれいな川が必要

鮎の餌になるケイソウ類（水垢）は植物だから、太陽の光が川底まで届く、きれいな水の川でなければ育たない。川の水が濁り、光が届かなくなれば、餌がないから鮎はいなくなる。また鮎が好む大きさの石がゴロゴロしているところが良く、川底の石が泥や砂に埋まってしまうと、鮎はいなくなる。興津川が良い鮎の釣れる川であるためには、水がきれいであることと、程よい大きさの石が集まった川底の川でなければならない。ただ、鮎も小さい時は、虫などの餌も食べる。深い淵に群れている縄張りを持たない鮎は毛ばり（虫に似せた疑似餌）で釣れるから虫を食べることがある。この時は図の6番の下顎円錐歯と10番の舌咽骨（魚独特の“のど”の骨）が役に立っている。

ハゼの仲間は吸盤で川底に貼り付き獲物待つ肉食性の魚

鮎のように主に植物を食べる魚は少数派である。「興津川に棲む魚たち」に示されている図ではハゼの仲間にボウズハゼ・カワヨシノボリ・シマヨシノボリ・ヌマチチブ・スミウキゴリなどがある。これらハゼの仲間は左右の腹びれが合わさって吸盤になり、川底に張り付いてじっとしており、獲物が近付くとパクリと食いつく待ち伏せ型の魚である。では口の中の歯はどんなものか？調べてみましょう。

皆、キバのような尖った歯で所々抜けたものも見られるが、魚の歯は人の歯とは違いウロコ

と同じ由来のもので、抜けると、すぐ奥の歯が前に出てきて補うから間もなく元通りになる。この歯の列は鮎とは大違いで、小さな魚や水生昆虫などを捕まえる肉食であることを示している。肉食の魚は水生昆虫やミミズなどを餌にして釣ることができる。ただ、その川の魚が何を好むか？それには川に棲む虫などを調べ、好みを推定して釣る人は早く釣り名人になれると思われる。



写真は海の入江に棲むマハゼの上あごの写真である。鋭い尖った歯が4列も並んでいるのが分かる。

興津川に棲む生き物の食物連鎖を学ぶ

興津川の生物を調べてみるとカワヨシノボリなどのハゼの仲間やアマゴなど肉食性の魚がたくさん出てくる。これは餌になる水生昆虫などが豊富に棲んでいなければ保てない。川の水がきれいか？汚れているか？はそこに棲む生き物の種類数で判断でき、多くの種類が棲んでいるところほど水がきれいである。生物多様性が保たれることが大切なのは御存じの通りである。川に棲む生き物を調べ、それらの食べ物から食物連鎖を考え、生物の多様性の維持をはかることは川の水質保全や川の健康診断の上からも大切なことと思っている。

毎年、夏に小学生に参加してもらい実施している「川のセミナー」の生物のテーマは、これまで「魚は水の中でどうして『いき』をしているか？」であったが、2012年から「魚は何を食べているか？」をテーマにすることにした。このテーマを紹介しながら、食べ物からも食物連鎖や川の水をきれいに保つことの大切さを学んで行きたいと考えている。

鮎釣りと川遊びセミナー参加者へのアンケート結果を紹介します。

川遊び・鮎釣りセミナー参加者の感想

毎年、7月の最終の土曜日が川遊び・鮎釣りセミナーを開催する日です。

このセミナーは、事業委員及び事務局が中心となり、興津川非出資漁業協同組合の鮎釣り名人の協力により実施しています。

今回は、参加者がどのような感想を持ったかというを紹介합니다。

《参加者の感想》

■【鮎釣り】で楽しかったことはなに??

(※) 数字は、同じ感想の人の数

◆鮎が釣れたこと

- ・ あゆが釣れたこと。(7人)
- ・ 家族で一匹つれたこと。大物が一匹つれた。
- ・ はじめての体験で2ひきつれてよかった。
- ・ かかってひっぱられたこと
- ・ 私は釣れませんでした、娘が短時間で釣れて嬉しかった。何より子どもたちが夢になる姿が見ていて楽しかった。



◆鮎は釣れなかったけど楽しかった

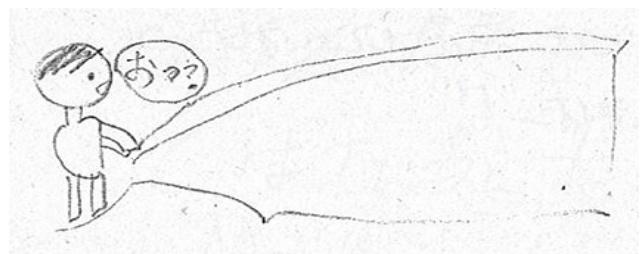
- ・ 1匹もつれませんでした、川が気持ちよく、いろいろ勉強になりました
- ・ あゆつりはけっこうむずかしかったけど、たのしかった。

◆鮎の友釣りの仕組みが分かった

- ・ あゆの友釣り（おとり）の仕組みを学ぶことができ、釣るところを間近で見ることができ、よい体験となった。
- ・ おとりあゆのつけ方がわかった。仕掛けがわかった。
- ・ おとりのあゆが（野鮎に）おいかけられるということを知りませんでした。
- ・ 鮎がナワバリを持つという習性を利用して、おとりを使って釣る独特の手法がおもしろかった。

◆鮎の友釣りが体験できたこと

- ・ 生まれてはじめてあゆつりを体験した。
- ・ はじめてやったので、ワクワクでした。先生にいろいろお話も伺えてたのしかった。
- ・ おとりあゆのあやつり方を教えてもらった。
- ・ おとりあゆがどこへ行くかわからないという、ドキドキがたのしかった。
- ・ 友釣りの奥の深さ、難しさを体験できた。
- ・ さおを持ちながら、アユのいる場所をさがした。
- ・ あゆがけんかして釣れると、1匹が2ひきになったのがたのしかった。
- ・ 今まで経験できなかったことが経験できてよかったです。
- ・ あゆがさわれたこと。



鮎が釣れたよ！

参加者の感想特集

■【川あそび】で楽しかったことはなに??

◆潜ったこと、泳いだこと

- ・もぐったこと。つめたい水に入ったこと。
- ・泳いだこと。クロールで泳いだこと。
- ・清流に身をまかせ、泳ぐことができて楽しかった。気持ちがよかったです。
- ・川遊びの時にやった平泳ぎ
- ・ぷかぷか浮いてあそんだこと（3人）
- ・カッパの川ながれならぬ人類の川ながれ
- ・ライフジャケットがあつて、安心してたくさん遊べたこと。

◆遊んでもらったこと、教えてもらったこと

- ・ロープで引っ張って頂いたり、遊びを作って頂いたのがよかったです。（2人）
- ・深いところへいったりとびこんだりたのしかった。とびこむのがたのしかった。（2人）
- ・川の流れに逆らわずに渡る方法を教えてもらったこと。

◆魚を捕まえたこと

- ・えびやカニや魚を捕まえることができた。
- ・生き物がいっぱいとれたこと。（4人）
- ・小魚とり。おたまじゃくしとり（2人）
- ・今日、かえるやちびえびやヤゴなどがとれたことです。（2人）

■今日の感想!!その他

◆鮎の塩焼き

- ・あゆの塩焼きがスゴクおいしかった。（4人）
- ・鮎の塩焼きが卵付きでした。



鮎の塩焼き

◆スイカ割り

- ・子どもたちのスイカ割りが楽しかった（2人）
- ・スイカがおいしかった。



◆水切り、石遊び

- ・水きり5回できてうれしかった。

◆楽しく、良い体験をした

- ・こどもたちが楽しく遊んでいた。大勢で遊ぶことが大切ですね。団体行動について学んだ。
- ・主人が釣りをしないので、なかなか釣りをする機会がありません。有意義な時間でした。来年も是非参加したいと娘と思いました。今日一日ありがとうございました。
- ・個人で体験することが難しいので、今回はよい機会をいただいて、とてもよかった。
- ・あゆ釣りは敷居が高く感じていたが、親しみを感じられた! 今後鮎釣りをしたい!

◆いつまでもきれいな興津川で

- ・興津川がいつまでも鮎の棲息できる、美しい河川であってほしいと願う。
- ・川の水がきれいで足をつけているだけでも気持ちがよかった。



「川遊びと鮎釣りセミナー」参加者全員で記念撮影

市民の森づくりを振り返って

興津川保全市民会議・事業委員

奥寺利充

市民の森づくりに初参加してS-GITを知る

私が興津川保全市民会議の事業である『市民の森づくり』に初めて参加したのは1999年（平成11年）4月4日のことです。そこで森づくりを指導していた森林ボランティア団体、清水みどり情報局「S-GIT」を知りました。そのS-GIT面々の林業家然としたいでたちと手慣れた所作を見て、山仕事なるものに非常な興味をいだき、日をおかずして入会することになりました。

市民の森づくりがスタート

その当時の「やませみ通信13号」によると『市民の森づくり』はその年から始まったのです。旧清水市の森林公園「やすらぎの森」の近くの貝伏地区にある伐採したあとの傾斜地1haを清水市が買い取り、その地で市民参加による森づくりがスタートしました。

スローガンは「100年の森づくり」

スローガンにかかげているのは、5年10年と時をかけてつくってゆく「100年の森づくり」です。第1回目の植栽は、30名が参加して地ごしらえをし、スギ50本、ヒノキ150本を植えました。

以後毎年4月初旬に、針葉樹、果樹、広葉樹を取り混ぜて植えてきました。

それから14年を経た今、現在のフィールドを俯瞰して見ると、杉はよく育ち直径20cmを超える木もあります。ヒノキは苗木時に鹿の食害もあって、スギに比べたら活着率は低いものの、まずまずに育っています。

広葉樹を人の手で育てるのは困難も

さて問題は広葉樹類なのですが、これまで、ブナ、クヌギ、コナラなど植林してきましたが、活着率は極端に低い状態です。原因は、植栽時の雨不足で乾燥による枯れ、鹿の食害、夏の下草刈りで、大きく育った雑草と区別がつかずいっしょに刈られてしまうなどいろいろ考えられます。

中でも最大の原因と思われるのは、地の植生に合わない樹種（そうと結論づける根拠はないもの）であるため、自然に生えてきたカシなどの常緑照葉樹の勢いにはかないません。

鹿の食害対策

鹿の食害に対しては、3年ほど前から食害防止のための「ヘキサチューブ」を導入して対処し、それなりの効果がでています。しかし、チューブの中で蒸れて弱ってきているのもあり、チューブをはずす時期の見極めが難しい点もあります。



鹿の食害から守るヘキサチューブを使った植林
市民の森づくり」14年を経て

『市民の森づくり』はスタートから14年をかけて育成活動をしてきて、自然から多くのことを学びました。順調に育っている木がある一方で、枯れ消えてしまった木も多くあります。「枯れてしまったのが顕著であるから森づくりは失敗した」などとは思いません。「自然環境の摂理を学んだ」ということです。

当初、植林の区域として予定していた場所もほぼ植え終りました。これからは、植えた木の枝打ちや間伐等の維持管理の時期に入りました。

第二期の森づくりへ

今までの森づくりを第一期としてとらえ、これから第二期へ転換してゆく時ではないかと考えます。第二期の森づくりを具体的にどう進めるのか？と問われても、明確な返答はできません。しかし、私達が植えてゆるぎなく成長をつづける木を、これからも見定めてゆかなければいけないという思いがあります。『市民の森づくり』のスローガンである「100年の森づくり」を、できるかぎり継承してゆくことを含めて、これから新たな方向を探すことが必要な時期にきていると言えます。



ヘキサチューブは、木には窮屈だけどシカタナイ！

四月の植林活動

毎年四月は、植林活動です。本年度は、峰の子山荘の近くの、台風により倒れてしまったところへの植林を行いました。



台風で倒れた樹林地へ植林をした



昼休みのお楽しみは、豚汁でした



植林を終えて、参加者全員で記念写真

七月の下草刈り

七月は、植林した木の周りの草刈り作業です。毎年、草刈り鎌を砥石で切れるように研いでから、植林地に向かいます。



草刈りは作業は、鎌の切れ味が重要です



雑草に隠れた植林の周りの草刈りをしました



ヘキサチューブの周りは草刈り作業もしやすい

興津川保全市民会議会員 杉村典亮

山梨県北杜市へ

11月1日(木) 早朝、清水区役所を出発。庵原、宋原、南部町で合流の会員を加え、総勢23名で山梨県北杜市へ向かった。

中部横断自動車道の混雑状況を見ながら早々と白州町に到着。時間の余裕を得たため、第一目的地であるサントリー自然水工場見学を前に、甲州街道台ヶ原宿の「山梨銘醸」を訪ねた。甲斐駒ヶ岳の伏流水を醸して300年の蔵元であり、明治天皇行幸の際行在所を務めた歴史を持つ。向かいの老舗菓子屋「金精軒」は信玄餅の登録商標を持つ元祖と言う。いずれも水に恵まれてこそ江戸、明治の時代から伝統と信用の商いを続けてきたものである。早々と土産物を買った者多数。

「サントリー天然水白州工場」は森の中に点在する。施設間を森に優しい電動バスで移動、天然水製造プロセスの説明を受ける。製品の天然水を試飲、軟水、硬水を飲み比べ併せてウイスキー12年ものを試飲した者も多かった。天然水もウイスキーも甲斐駒ヶ岳の豊かな森と清冽な水の賜物である。工場は三つの大きな井戸を持つとのこと、原料はただであり羨ましい水商売である。



三分一（さんぶいち）湧水

工場の好意を謝し、次いで長坂町へ向かった。ここでは名高い「三分一（さんぶいち）湧水」を見学。以下に湧水館パンフレットの説明を記す『三分一湧水は八ヶ岳南麓高原湧水群で1985年、名水百選のひとつに選定された。年間を通じて水温10℃前後で、日量8,500tと豊かな湧出量である。江戸時代に湧出口の分水栞に三角

石柱の利水施設を造り、湧水を三方向に村に流したことからこの名が残り、「三分一湧水」の名の由来となった。分水池の様子は大変美しく、池の中央に置かれた水分石と呼ばれる三角柱の石は、先人の知恵のシンボルである。』静かな林の中、江戸時代の人々の声を聴く思いで湧水に耳を傾ける時、水こそ命そのものであると思う。

湧水の膨らみ止まず散る黄葉（もみじ）

水分ける三角石柱秋澄めり

澄み切って水三方へ奔（はし）りゆく



八ヶ岳南麓高原湧水群 三分一（さんぶいち）湧水

湧水で打った新蕎麦

水の恵みの資料館を見て、「そば処三分一」で昼食。湧水で打った新蕎麦は格別であった。

この後、当初計画では甲府市「武田の杜」を見学する予定であったが、北杜市内にも同様施設があることから一同協議、白州町へ戻り「白州・尾白（おじら）の森名水公園べるが」を訪ねた。ここでは森の研修館、宿泊施設等を見学、北杜市が自然環境教育へ大変力を入れていることを感じた。一同紅葉する林を散策、尾白（おじら）川まで足を伸ばした。夕暮れ迫る林の中、カケスの不意の大声に驚かされたことであつた。

森と水の視察研修に参加して

帰宅途中でそれぞれ感想を発表した。成瀬委員が「南アルプスの分水嶺を境に我々静岡側も安倍川、興津川共に北杜市に優るとも劣らぬ清流に恵まれている。」との発言に一同得心、今後とも興津川を守り育てて行こうとの思いを新たに家路に着いた。

ー平成24年度興津川保全市民会議総会をふり返ってー
東海大学海洋学部海洋生物学科 庄司隆行

魚類研究に最適な静岡市周辺

私は、東海大学海洋学部で魚類の化学感覚（嗅覚や味覚）の機能とそのメカニズムを研究課題として学生たちといっしょに活動しています。私たちが研究をおこなうにあたって、静岡市周辺はたいへん有利な土地です。なぜかという、山側を向けば多くの清流が流れ、海側を向けば駿河湾が広がり、溪流魚から深海魚まで、ほんとうに多様な魚類を研究対象とすることができるからです。

これまで私たちは、アマゴ、ヤマメ、ウナギ、ナマズ、サメ・エイ類、種々の沿岸魚類や深海魚類等を対象としていろいろな実験・観察をおこなってきました。また、静岡科学館の活動のお手伝いとして、魚が持っている鋭い嗅覚のことなどを子供たちに紹介したりもしています。このようなことから、平成24年度興津川保全市民会議総会で「清流と魚類の嗅覚ー魚類の嗅覚行動に関する研究例ー」と題してお話しする機会をいただきました。会議に参加させていただいたことで、私は自分と清流とのかかわりについてあらためて考えることができました。

山形市馬見ヶ崎川で魚釣りをして育つ

私は山形市で生まれました。山形市は典型的な盆地で、街や住宅地は最上川水系の馬見ヶ崎川（まみがさがわ）の扇状地の上にあります。山形市民は秋になるとこの川の河川敷で“芋煮会”という行事を盛んにおこなうので、ニュース等で馬見ヶ崎川の名前をお聞きになった方もおられるかもしれません。私は、小学校から高等学校までの間、勉強もせずにこの川で釣りばかりしていました。中学校からは上流域でイワナを釣ることが多かったと思います。今で

も、川のどこにどういう滝や淵、瀬があって良い“ポイント”になっているかをだいたい憶えています。もし、豪雨などで溪相が変わっていたりしたら悲しいですね。

魚の味覚・嗅覚とサケマス之母川回帰の研究へ

大学からは北海道（札幌市）に住んで、やはり川釣りを続けました。4年生になって味覚や嗅覚を研究する講座（薬学部・栗原堅三教授）に入って卒業論文を書くときも、実験材料はコイやニジマスでした。一度就職しましたが、基礎的な研究を続けたいと考えて、また元の研究室に戻って学位（薬学）をとりました。この頃も、北海道中でイワナ、アメマス、オショロコマ、ヤマメ・サクラマス、イトウなどを釣って遊びました。その間に教授の勧めで研究室のスタッフになり、サケマスの母川回帰（産まれた川に帰るしくみ）の研究を始めることになりました。清流で遊ばせてもらっていた人間が、今度は清流を研究の対象とする立場になったわけです。

自分と清流とのかかわりについて思い返すと、清流に親しんで遊んでいた小さい頃から仕事の間とするようになって20年経つ現在まで、ほんとうはずっと清流に勉強させてもらっていたんだなと感じます。今回会議に参加させていただいて、そのことにやっと気づきました。

私が北海道から静岡に移って10年になります。今では興津川にも私が子供の頃親しんだ馬見ヶ崎川と同様の愛着を覚えます。興津川を大切に思う気持ちはみなさまと同じのつもりです。今後もいろいろな活動に参加させていただくことができれば幸いです。

各種グッズ等を作成し、有効活用しました

2011 年度一般財団法人セブニーイレブン記念財団の公募助成を受け、オリジナルグッズ 3 点を作成し、「川遊び・鮎釣りセミナー」や「川のセミナー」などで活用したほか、希望者に配布しました。どれも大好評でした。



「鮎釣りの極意解説書」「興津川観察ガイドブック、興津川にすむ魚たち・水生生物」の下敷き

市民会議の帽子ができました

No. 34 号でも紹介済みですが、興津川保全市民会議のオリジナルの帽子ができました。

メインの鳥は、清流興津川に生息する「やませみ」です。**OKT**は、**OK i T s u**の頭文字を表しています。横には、興津川保全市民会議の名称を入れました。

各種のイベントなどに活用していますが、会員の皆さんで希望される方がおりましたら事務局までご連絡下さい。



季刊 清水が（発行：戸田書店）「興津川を流れ下る」を特集

第 45 号の特集で、興津川について詳しく掲載されており、興津川保全市民会議の活動も紹介されています。

（定価：500 円＋消費税）



【小林環境創造部長が寄附を受け取りました】

清水入江女性学級から興津川保全基金へ寄附を頂きました。毎年ありがとうございます。



【活動募金箱をリニューアルしました】

マリンビル、やませみの湯、笑味の家、食事処たけのこ にあります
活動を応援するお気持ちを募金箱にぜひお寄せ下さい。



興津川保全市民会議の会員になり、「清流の都」づくりのため、一緒に活動してください。

法人、団体等会員 3,000 円 / 年
個人会員 1,000 円 / 年

会員へは、「やませみ通信」他、年間を通じて各種イベント、企画の御案内を送らせていただきます。是非イベントに参加して、ふるさと興津川の環境と一緒に守って行きましょう。
また、清流のうたのCDなども特別価格にて提供します。

発行 興津川保全市民会議
編集 興津川保全市民会議 事業委員会
編集レイアウト (株) 地域デザイン研究所 (望月)
発行日 平成 25 年 3 月

興津川保全市民会議事務局
(静岡市清流の都創造課内)

TEL. 054-221-1319

FAX. 054-205-2666

〒420-8602 静岡市葵区追手町 5-1



ホームページもご覧下さい <http://www.okitsu-yamasemi.net/>

編集委員からひとこと・・・

平成 24 年の市民会議の活動で残念なことは、森林探検隊の事業が雨のために中止になったことです。参加者が森の中を元気にとび回れるように冒険コースを整備したのですが実行できませんでした。
次回こそはイキイキとした子どもたちの顔を見たいですね。